実践事例（３）
第１・２学年　国語科　～学年一人ずつの児童で構成されている複式学級の学習指導の工夫～

１　はじめに

１学年に一人しか児童が在籍していないことで、常に個に応じた学習活動を提供することができ、進度も比較的早く進む。反復学習を行う時間的な余裕があり、基礎基本を定着させることができる。しかし、同一の学習課題について友達と考えや感想を交流し、さらに深めることはできない。友達の意見を聞き、それを基に自分の考えを修正したり深めたりする経験は、コミュニケーション力を高める上でも大切であることから、学習指導の工夫を行うことでこの課題を克服したいと考え、「話すこと・聞くこと」の内容において、以下のような実践を行った。

（１）　児童に応じた指導計画（年間指導計画の作成及び単元構成）
（２）　表現の場の工夫（異学年との交流）
（３）　聞き合うことのよさを実感する活動の工夫

２　実践例

（１）単元名

第１学年	第２学年
きいて　しらせよう	あったらいいな、こんなもの

（２）単元目標（評価規準）

第１学年	第２学年
○　身近な人の「楽しいと思うこと」から、一番紹介したいことを見付けたり、分かりやすく伝えたりしようとしている。（関心・意欲・態度） ◎　紹介する内容について、大事なことを落とさずに聞いたり、事柄の順序を考えながら話したりすることができる。（話す・聞く） ○　聞いたことを伝えるときの話し方を理解する。（言語）	○　自分が考えた道具について、詳しく説明したい内容を選んで伝えようとしている。（関心・意欲・態度） ◎　相手に分かるように、説明する事柄の順序を考えたり、声の大きさや速さなどに気を付けて話したりすることができる。（話す・聞く） ○　事物の形や働きを表す言葉の働きを理解する。（言語）

（３）単元の指導計画

第１学年（全５時間）		第２学年（全７時間）	
時間	学習内容	時間	学習内容
1	○　学習の見通しをもつ。 身近な人の「楽しいと思うこと」を聞いて、紹介しようという学習課題と流れを確認する。	1	○　学習の見通しをもつ。 「あったらいいな、こんなもの」についてスピーチをしようという学習課題と流れを確認する。
1 1 1 （本時）	○　インタビューの仕方を学習する。 ○　身近な人にインタビューし、聞き取った内容を整理する。 ○　紹介したい内容について、順序を考えて２年生に紹介する。 補足する内容を考えて、再度インタビューをする。	1 1 1 （本時） 2	○　あったらいいなと思う道具を考えて絵に描く。 ○　理由や道具の働きを考えて、絵に説明を書き込む。 ○　描いた絵を使いながら１年生に紹介する。道具の説明について詳しく考える。 ○　話す順序や組立を考え、発表メモを書く。
1	○　３年生に紹介する。 ○　学習を振り返る。	1	○　３年生にスピーチをする。 ○　学習を振り返る。

（４）本時の指導

<table>
<tr><th colspan="4">第１学年</th><th colspan="3">第２学年</th></tr>
<tr><td colspan="4">（１）　ねらい
○　紹介したいことが伝わるように、話す順序を考える。

（２）　準備物
話すこと・聞くことCD　　短冊カード

（３）　展開</td><td colspan="3">（１）　ねらい
○　１年生からの質問を参考にして、より分かりやすくなるよう説明を加える。

（２）　準備物
あったらいいなと思うものの絵
短冊カード　　ワークシート

（３）　展開</td></tr>
<tr><th>○主な指導　◎評価</th><th>学　習　活　動</th><th colspan="2">わたり</th><th>学　習　活　動</th><th colspan="2">○主な指導　◎評価</th></tr>
<tr><td rowspan="2">○　本時のウォーミングアップとして、質問や感想を伝えさせる。</td><td>１　本時の学習の流れをつかむ。</td><td>10</td><td>10</td><td>１　本時の学習の流れをつかみ、めあてを確認する。</td><td></td></tr>
<tr><td>２　２年生のスピーチを聞いて質問や感想を伝える。</td><td colspan="2"></td><td colspan="2">あったらいいなと思うものを、もっとくわしく説明しよう。
２　１年生に道具を紹介し、質問に答える。</td><td>○　やり取りを短冊カードにメモさせる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">しょうかいしたいことのじゅんじょをかんがえてつたえよう。
○　話すこと･聞くことCDを用いて、紹介の仕方を確認させる。</td><td>３　本時のめあてを確認する。</td><td>12</td><td>12</td><td>３　道具の説明を付け足す。</td><td>○　短冊カードを確認しながら、ワークシートに書き込ませる。
◎　道具の働きやよさがより伝わりやすくなるよう、説明する内容を詳しく考えている。</td></tr>
<tr><td>◎　話す順序を考えて紹介をしている。</td><td>４　短冊カードを見ながら２年生に紹介する。</td><td>8</td><td>8</td><td>４　１年生の紹介を聞いて、質問や感想を伝える。</td><td>○　インタビューをする意欲がわくような質問や感想になるよう、声掛けをする。</td></tr>
<tr><td>○　２年生の質問や感想から、再びインタビューする内容を整理させる。</td><td>５　２年生からの質問や感想をもとに、再びインタビューをして、紹介する内容を考える。</td><td>12</td><td>12</td><td>５　発表メモを作成する。</td><td>○　スピーチをする上で必要なことをメモさせる。</td></tr>
<tr><td>○　再度聞き取りをしたことで、紹介する人のことをさらによく知ることができたことを確認させ、次時の学習への意欲を高める。</td><td>６　学習の振り返りをする。</td><td>3</td><td>3</td><td>６　学習の振り返りをする。</td><td>○　本時の学習で身に付けたことを確認させ、次時の見通しをもたせる。</td></tr>
</table>

３　考　察

（１）児童に応じた指導計画（年間指導計画の作成及び単元構成）

「話すこと・聞くこと」の学習時期を１年生と２年生で揃えることで、身に付けさせたい指導事項をより明確にして取り組むことができた。

また、２年生の本単元は通常 12～14 時間程度の指導計画を立てることが多いと考えられるが、一人学級であるため、補充や繰り返しの学習を１単位時間内で十分に行えるだけでなく、話合いや発表の時間は大幅に削減できる。朝の会にはスピーチの時間を設けており、全校児童３名が、３日に一度のペースでスピーチを行い、発表活動を充実させている。これらのことから、年間指導計画を見直し、この単元の指導計画を７時間で組むこととした。削減した時間は、定着が不十分だと感じている領域の学習に組み入れたり、言語力アップのためのスキル学習に充てたりし、個に応じた学習活動に活かしている。

（２）表現の場の工夫（異学年との交流）

本時は互いに紹介したいことを伝え合う活動を組み込んだ。聞き手の立場に立つことにより、聞く側が満足する紹介にするためには、どのような情報が必要かを考えさせることとした。１年生は、この活動をもとに紹介の内容を修正し、３年生に紹介した。そして、３年生からの感想をもとに更に内容を見直し、隣接する幼稚園の園児に紹介した。

上級生や園児に自分の学びを披露し、感想を聞くということが児童の活動意欲を高めた。また、異学年との交流を行う目的の一つに、相手に応じて声の大きさや話す速度を変えていく必要があることを実感させることが挙げられるが、成果は大きいと感じた。

１年生は「話す・聞く」のウォーミングアップとして

２年生は知りたいことを率直に尋ねながら

２年生からの質問をもとに内容を付け足して、３年生に紹介

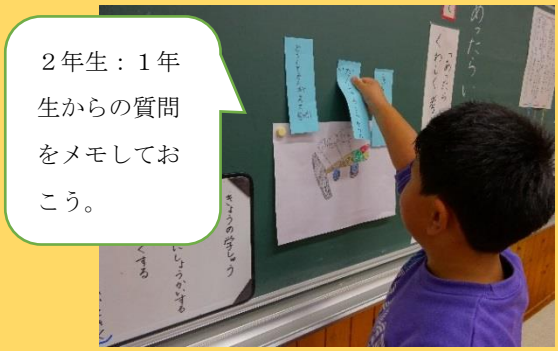
３年生の感想をもとに紹介の仕方を少し変えて

幼稚園の友達にゆっくりとした話し方で紹介

（3）聞き合うことのよさを実感する活動の工夫

１年生は「校務員さんが楽しいと思うことを、分かりやすく順序を考えて紹介する」という計画を立てて活動を進めた。第３時のインタビューでは、自分が予め考えていた質問をすることが中心となってしまい、校務員さんが一番楽しいこととして答えた「大正琴」に対して質問をする様子はうかがえなかった。しかし、ここで大正琴にこの児童の関心を向けるきっかけとなったのは、本時の聞き手だった２年生からの質問だった。音楽発表会で琴の演奏を経験していた２年生は、自分が弾いた琴との音色の違いを質問した。そこから、再度校務員さんにインタビューをし、実際に音色を聴かせていただく流れになった。このやり取りによって、１年生は紹介の内容を充実させることができた。

２年生が「あったらいいなと思うもの」として取り上げたものは、家の手伝い（牛舎の仕事）から思いついた「糞掻き」の道具であった。牛舎に馴染みのない１年生は「何をするものなのか」「(絵に描かれた部分の）形はどうなっているのか」など、理解できるまで何度も質問を繰り返した。２年生は、質問された内容をメモに残しておくことで、次の自学にスムーズに移ることができた。さらに、加えたい説明をいろいろと考えた後、明確な観点をもって整理することができた。１年生の質問によって、説明の仕方だけでなく道具の形の描き方も見直し、視覚的に伝わるかどうか確認することができた。



４　おわりに

毎日継続して行っているスピーチ活動においても、「よき聞き手の存在がよき話し手を育てる」ということを意識させながら感想発表を通して交流を深めている。本時は、互いの質問や感想をもとに見直すことで、相手によく伝わる紹介になるということをそれぞれの児童なりに実感することができた。また、学習を通して、「次は〇〇を～さんに紹介したい。」という「話す」意欲を高めることもできた。しかし、「話の順序を考えて、相手に分かりやすく伝える」力の定着についてはまだまだ学習が必要である。日常生活における様々な会話の場を学習の機会と捉え、継続的な指導を行っていきたい。さらに、「話す・聞く」ことには必ず相手が存在し、大事なことを落とさず聞いたり話したりできる力の根底には、相手の気持ちに寄り添う心がいることを伝えるとともに、その心を低学年の時期からしっかりと育んでいきたい。

複式学級で過ごす子どもたちは、毎時間、異学年の児童の様子を意識しながら自分の学習を進めざるを得ない。今後も、自分の学習課題に集中する力だけでなく、他者と関わる力を身に付けさせるための学習活動に地道に取り組んでいきたい。